

タニウム、年次カンファレンス「Converge Tokyo」を開催

～生成 AI 時代の脆弱性リスクに対応、自律型 OS「Tanium Atlas」を発表～

AIを活用した自律型 IT «Autonomous IT» のリーダーであるタニウム合同会社（日本法人本社：東京都千代田区、代表執行役社長：原田英典、以下タニウム）は2026年6月12日（金）、ANA インターコンチネンタルホテル東京で年次カンファレンス「Converge Tokyo」を開催いたしました。本カンファレンスは、米国をはじめとする世界の主要都市で毎年開催されているフラッグシップイベント「Converge」の日本版にあたります。今年は、約 1,600 名のセキュリティ担当者が参加し、過去最大規模となりました。



今年は、「Autonomous IT. Unstoppable Business. 自律化が導く転換点 — IT が企業と経営を守る、新しいかたち」をテーマに展開しました。Claude Mythos（クロードミュトス）をはじめとした生成 AI の進化により、「AI 対 AI」のサイバー攻防が現実化する中、マニュアル作業前提の運用構造の限界が顕在化しています。本イベントでは、全数把握・常時可視化・迅速な是正から、AI・自動化を活用した新たなセキュリティ運用モデルと、「止まらない IT」への転換を提示しました。また、同日に[自律型オペレーションシステム「Tanium Atlas」[※]](#)を発表しました。

「Unstoppable Business.（事業を止めない経営）」をテーマとした基調講演では、Tanium Inc. 最高経営責任者（CEO）ダン・ストリートマン、タニウム合同会社代表執行役社長 原田英典、Tanium Inc. 最高執行責任者（COO）マット・クインらが登壇し、自律型 IT 運用「Autonomous IT」の必要性や、セキュリティ業界を取り巻く実態・課題について解説しました。また、自律型オペレーティングシステム「Tanium Atlas」の発表とともに、その活用によって実現を目指す次世代の IT 運用の姿について紹介しました。

このほか、20以上のセッションに加え、最新機能を体験できる「ハンズオンラボ」も開催され、参加者はタニウムの最新技術や製品への理解を深めました。

■ 首脳陣が Tanium Atlas を発表、Autonomous IT が切り拓く次世代 IT の展望を語る

基調講演の冒頭、タニウム合同会社 代表執行役社長 原田英典が登壇し、次のように話しました。

まず、生成 AI の進化によって業務の在り方が大きく変化している現状に触れました。その一方で、攻撃者側も AI を活用し「マルウェアは依然として脅威であり、社会的にも大きな影響を与えている」と述べ、今年のテーマである「転換」を示しました。



「昨今話題となっているクラウドミュースやフロンティア AI は我々にとって非常に大きな助けになる一方で、別の側面もある」と話し、脆弱性の発見や悪用にかかる時間が大幅に短縮されていることへの懸念を示しました。そして、「攻撃者が AI の恩恵を受けているが、我々防御側も AI に転換すべきだ」と述べました。

また、「いかに早く、現場の数千～数万規模の端末にパッチを当てられるかが本質だ」として、秒単位で各端末の正確な情報を取得して、全台一斉に制御をかけることができる点がタニウムの強みであると強調しました。さらに、AI と組み合わせ、緊急性の高い端末を瞬時に特定し、対策が必要なパッチの成功率を即座に算出して自律的に修復する「Autonomous IT」について言及しました。その実現を支えるのがリアルタイムインテリジェンスであり、「タニウムが全世界で管理する 3,600 万台以上の端末から得られる知見と、皆様が管理しているエンドポイントのリアルタイムな情報を組み合わせることで、判断に必要な指標を提示する」と説明しました。

そして、「リアルタイムで正確かつ網羅的な情報があるからこそ、AI が自律的に判断して実行することが可能となる」と述べ、Autonomous IT の実現に不可欠な要素として「リアルタイム」「正確」「網羅的」の重要性を強調しました。

続いて、**Tanium Inc.最高経営責任者（CEO）のダン・ストリートマン**が登壇し、Autonomous IT が目指す世界観や、顧客とのパートナーシップについて語りました。



ダン は冒頭、15年間続けているアイアンマン競技の経験を紹介し、視覚障害のある選手のガイドを務めた際、リアルタイムで状況を伝えることが完走を支える重要な要素だったと振り返りました。「そういったパートナーシップをぜひ皆様と構築したいと考えております。どんなにコースが難しいものでも、一緒になれば Unstoppable（止められない存在）になれる」と述べました。

また、IT・セキュリティチームを取り巻く環境について、「脅威やエクスプロイトインシデントは今まで以上のスピードで発生しており、企業は対応を迫られている」と指摘しました。脆弱性が公開されてから攻撃に悪用されるまでの期間

が大幅に短縮されていることや、今後、攻撃に悪用される脆弱性が増加すると予測されていることに触れ、「マニュアル作業に頼る運用では対応時間はやがてなくなる」と危機感を示しました。その上で、「リアルタイムインテリジェンスによって駆動される信頼できるソリューションが必要だ」と述べ、リアルタイムの可視化やインサイトの重要性を説明しました。

続いて、昨年 11 月の「Converge US」、Tanium を「Autonomous IT Company」へと進化させるビジョンを発表したことに触れ、エージェントック AI や堅牢な API、シームレスな連携を通じて、運用やセキュリティを自律化する「Autonomous IT」の考え方を説明しました。また、富士フイルム株式会社の導入事例を紹介し、IT 資産の一元管理や運用負荷の軽減などの成果を共有するとともに、モバイルデバイスなど、より幅広い領域への対応を進めていく方向性を示しました。

最後に、視覚障害のあるアイアンマン選手とのエピソードに再び触れ、「彼が見えないことを私が見て、リアルタイムで状況を伝えることで前進することができた。それこそがパートナーシップであり、信頼だ」と語りました。そして、「皆様と共に Autonomous IT を活用しながら、Unstoppable になれることを確信している」と締めくくりました。

続く **Tanium Inc. 最高執行責任者 (COO) のマット・クイン** は、Autonomous IT を支える自律型オペレーティングシステム「Tanium Atlas」について説明しました。



まず、AI 時代において IT 環境が複雑化し、エンドポイントやセキュリティ、IT 運用に関する膨大なデータを迅速に活用することが求められていると説明しました。その上で、「業界のエンドポイントアーキテクチャやデータを一か所に集約し、可視化するための基盤が Tanium Atlas だ」と紹介しました。

また、Tanium Atlas は「自然言語で質問を投げかけることで、脆弱性の状況確認やパッチ適用、環境の最適化などに関する情報をリアルタイムで取得できる。従来は複数の画面やツールを横断して行っていた作業を、一つのコンソール上で実施できるようになる」と説明しました。

さらに、回答を提示するだけでなく、理解・判断・実行までを支援する「Agentic Workflow」を実現すると述べました。

その上で、Autonomous IT を実現するためには「スピード」「スケール」「安全性」の 3 つが重要であると強調しました。AI による自律化を進める一方で、ガバナンスや監視の仕組みを維持しながら、安全かつ信頼性の高い運用を実現していく考えを示しました。Confidence Score や Insights Engine などの機能、Microsoft・ServiceNow との連携強化についても紹介しました。

マットは、「AI による自律化を進める上では統制とガバナンスが不可欠だ」と述べるとともに、「リアルタイムデータを活用することで、利用者が自信を持って意思決定できる環境を提供していきたい」と語りました。

※Tanium Atlas の詳細：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000064.000089232.html>

■メディア向けラウンドテーブルで Tanium Atlas が実現する自律型 IT 運用を解説



基調講演後には、メディア向けのラウンドテーブルを実施しました。タニウム合同会社 シニアマネージャーの村井 新太郎は、Tanium の特長や「Tanium Atlas」について、基調講演の内容を振り返りながら解説しました。

村井氏は、「Tanium の強みは、大規模な IT 環境においてエンドポイントの情報をリアルタイムかつ網羅的に把握できることだ」と説明しました。その上で、脆弱性の発見やパッチ適用、設定変更などを一元的に実施できるプラットフォームであることを紹介しました。

Tanium Atlas については、「利用者が自然言語で指示を出すことで、必要な情報の収集や分析、対処に向けたオペレーションを支援する仕組みだ」と説明しました。従来は専門知識が必要だった作業を効率化し、利用者は判断に集中できるようになると述べました。

■タニウムについて

タニウムは自律型 IT «Autonomous IT» 企業です。AI とリアルタイムのエンドポイントインテリジェンスを駆動力として、IT およびセキュリティチームが組織を止まることなく前進させる力を提供します。タニウムの自律型オペレーティングシステムである Tanium Atlas は、IT およびセキュリティのオペレータに、かつてはチーム体制を必要としていた業務を遂行するためのデータ、ガイダンス、そして広範なリーチを提供します。

タニウムは、2026 年に初めて発表された Gartner® Magic Quadrant™ for Endpoint Management Tools においてリーダーに位置付けられ、また IDC MarketScape : Worldwide Client Endpoint Management Software for Windows Device Management 2025–2026 Vendor Assessment においてもリーダーとして選出されています。

世界有数の組織の多くが、エンドポイント管理とセキュリティのための単一の統合プラットフォームとしてタニウムを信頼し、より速いイノベーション、強靱な事業継続、そして確信を持ったビジネスの前進を、大規模に実現しています。タニウムがどのように自律型 IT «Autonomous IT» でアンストップパブルなビジネスを実現しているかについては、<https://www.tanium.jp/>と [LinkedIn](#) をご確認ください。

日本法人名：タニウム合同会社

グローバル代表 CEO：ダン・ストリートマン

日本代表執行役社長：原田英典

設立年：2007 年

設立年（日本）：2015 年

所在地（日本オフィス）：〒100-0004 東京都千代田区大手町 2 丁目 6-4 常盤橋タワー25F

事業内容：自律型エンドポイント管理のプラットフォーム提供

URL：<https://www.tanium.jp/>

■免責事項

ここに記載されている情報は一般的な情報提供のみを目的としています。本情報は、当社が将来の製品、特徴、または機能を提供することについて確約、保証、申し出、および約束を行うものでも、法的義務を負うものでもありません。また、いかなる契約にも組み込まれることを意図しておらず、そのように見なされるものでもありません。最終的に提供される製品、特徴、または機能の実際の時期は記載されているものと異なる可能性があります。

©2026 Tanium Inc. All rights reserved. Tanium は Tanium Inc. の登録商標です。その他の社名、製品名、サービス名は各社の商標または登録商標です。